

冒険あそび場だより

PLAY
PARK
News
2017

REPORT 2017

「ぼうひろ」再開を控えて

巡回型遊び場の再編

被災者・被災地域支援の流れの中で始まった巡回型の遊び場は「『ぼうひろ』の再開までは続けよう」を目標にしていました。いよいよその時期が近づいた2017年度、今後の展開について検討を進めました。5か所の遊び場を展開する七郷地域の中で、「子ども自分の足で通える遊び場を残したい」と、中長期的に続けられる条件を探りながら2018年2月にスタートしたのが「七郷中央公園冒険あそび場」(右図⑦・右写真)です。毎週水曜日の午前中に乳幼児の親子、午後に小学生の遊び場として機能していた「伊在二丁目公園あそび場」(右図④)を移す形で始めました。「海岸公園冒険広場サテライト業務」として実施してきた「七郷あそび場」(右図③)も、ここに機能を集約する形で2018年6月に終了します。



遊び場づくりのサポートを推進

地域住民自らが取り組んでいる遊び場づくりの持続可能性を高めるために、2017年度はその活動と町内会や学生をつなぐ動きに力を入れてきました。若林区の上荒井地区では、「ちびひろ」(右図①)の運営メンバーを町内会役員につないだところ、物品の保管などさまざまなご支援をいただくことができました。青葉区片平地区で「のりっぱであそぼう」(右図④・右写真)の運営に参画する「追廻セツルメント」や、岩沼市「里の杜あそび場」(右図③)の運営団体である「にこここキッズ」など、大学生の組織のサポートも行いました。



のびすく若林 オープン

2017年10月、子育てふれあいプラザ若林「のびすく若林」が若林区役所隣の複合施設内にオープンしました。私たち冒険あそび場ネットは、せんだいファミリーサポート・ネットワークとともに「のびすく若林」の指定管理者として運営にあたります。同施設は乳幼児親子の交流の場づくりや、乳幼児の一時預かり、子育て相談などを担います。保育士資格を持つスタッフが常駐するほか、冒険あそび場ネットのプレーリーダーが週3日配置されます。孤立しがちな子育て世代を支えるとともに、隣接する緑豊かな公園「若林区ふるさと広場」を活かした外遊びの機会創出も含め、遊びの大切さを伝えていきます。



特集 | 再開する「ぼうひろ」のこれから



[冒険あそび場ネットが中心になって取り組んだ遊び場]

- ①六郷あそび場 ④伊在二丁目公園あそび場 ⑦七郷中央公園冒険あそび場
- ②東六郷であそぼう ⑤荒井東復興公営住宅のひろばであそぼう ⑧久保田東あそび場
- ③七郷あそび場 ⑥下荒井公会堂であそぼう

[他団体との遊び場づくり]

- ①「ちびひろ」(乳幼児室内あそび「ちびひろ」)
- ②ふるじろプレーパーク (ふるじろプレーパークの会)
- ③若林小あそび場 (仙台市立 若林小学校・若林区中央市民センター・若林児童館)
- ④のりっぱであそぼう (片平地区まちづくり会 のりっぱ部会準備会・西公園プレーパークの会)
- ⑤田子西こだま町内会 お茶の子さいさい (田子西こだま町内会・NPO法人 にじいろクレヨン)
- ⑥田子西三丁目 お茶の子さいさい (田子西三丁目町内会・NPO法人 にじいろクレヨン)
- ⑦二丁目公園で遊ぼう! (田子西中央町内会・NPO法人 にじいろクレヨン)
- ⑧里の杜あそび場 (いわぬまあそび場の会・にこにこキッズ)
- ⑨楽農村であそぼう (朝どり+楽農村)



2018年度に向けて

2018年度は、仙台市沿岸部では海岸公園冒険広場の再開に続き、第二堤防としてのかさ上げ道路や内陸への避難道路など、「復興工事」が最終段階に入ってきています。それに加え、集団移転の跡地において利活用の事業候補者が決定するなど、沿岸部では新たな賑わいづくりなどの動きも目に見えるようになってきます。周辺でのコミュニティ活性化などの課題にも向き合いながら、地域に貢献する取り組みを続けていきます。

一方で、子どもを取り巻くさまざまな課題は、被災地域を越えて広範にひろがっています。遊び場の存在や遊び場づくりの営みが応えられるものを再確認し、海岸公園冒険広場、のびすく若林、巡回型の遊び場、…それぞれの動きを連携させて実践を進めます。また、政策調査・提言等必要な働きかけを行なっていきたいと思います。

こうした取り組みには、多くの方のかかわりが欠かせません。それぞれの現場で、一緒に課題に取り組む仲間づくりを進めていきます。ご協力よろしくお願いします。

2017年都市住宅学会賞業績賞を受賞しました

都市住宅学会より「2017年都市住宅学会賞業績賞」を授与されました。同賞は、今後の都市住宅の向上・発展に大きく貢献するものと認められた業績を表彰するものです。東日本大震災被災者の住環境が避難所、仮設住宅、復興住宅と変化する中で、子どもたちの心のケア不足に気づいた点、この課題を解決するために巡回型遊び場を展開した点、そしてその成果を評価して頂きました。今回の受賞を励みに、今後も子どもの遊ぶ場づくり・機会づくりを起点とした地域コミュニティの形成に取り組んでいきます。

2017年度の助成金・補助金等

- ・日本NPOセンター「日産スマイルサポート基金」
- ・東日本大震災 花とみどりの復興支援ネットワーク
- 「東日本大震災 花とみどりの復興支援活動助成金」
- ・宮城県「みやぎ・地域復興支援助成金」
- ・宮城県「宮城県被災者支援総合交付金」事業
- ・杜の都の市民環境教育・学習推進会議「杜々かんきょうレスキュー隊プログラム体験実践業務」
- ・仙台市「海岸公園冒険広場 サテライト業務」
- その他多くの方々からご寄附等の支援を頂き活動しています。ありがとうございます。

発行・編集 認定特定非営利活動法人 冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク

〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-8-17日東ハイツ405 TEL&FAX:022-264-0667 E-mail:jimukyoku@bouken-asobiba-net.com

初版発行日 2018年6月30日

冒険あそび場ネット 検索



再開する「ぼうひろ」のこれから

進化する公園を目指して

来園者の「やってみたい」がカタチになる公園へ

2018年7月、東日本大震災で被災・休園してから7年4か月ぶりに海岸公園冒険広場「ぼうひろ」が再開します。冒険あそび場ネットは東洋緑化株式会社と共同企業体を構成し、指定管理者として自然豊かな環境のもと、自由な遊び場やデイキャンプ場の運営や管理に取り組み、沿岸部での賑わいや交流も創出していきます。

「ぼうひろ」には、震災前と同じく子どもの立場に立って自由な遊び環境を整えるプレーリーダーが常駐します。子どもがやりたい遊びを見つけ、のびのびと楽しめる場をつくります。

また、「ぼうひろ」ではこのような遊びのあとを、他の子どもの遊び心を刺激する仕掛けとして位置づけます。無数の遊びのあとが公園のカタチを変え、新たな遊びを次々と誘発していくような「進化する公園」を目指していきます。

上／震災前のプレーリーダーハウス前の様子。見守り、必要に応じてサポートするプレーリーダーが常にいることで、木工や火を使った遊びなどにも子どもが安心して挑戦できる公園を実現していました。園内を敢えて全面除草せず、一部を刈り残すことで花摘みや虫取りへのニーズに応える等の対応もとっていました。

下／再開後の「ぼうひろ」の「冒険展望台」は、津波警報が発令された際に避難できる丘としても機能します。海拔15mの頂上に700人避難できるほか、非常時は写真のように幕を張ってテントとして使用できる防災あずまやも新設されました。



右／「ぼうひろ」では仙台市沿岸部の魅力に子どもたちが会える機会の創出に、震災前から取り組んできました。自主事業「UMAをさがせ!」では、園内だけでなく貞山堀や海岸林などの周辺地域を公募した親子と探検し、様々な生き物との出会いを生み出していました。(写真右 ※2008年3月9日撮影)

下／震災発生後に展開している巡回型遊び場でも、子どもたちが沿岸部の魅力に触れることのできる場づくりに取り組んできました。若林区二木地区の日吉神社で開催している「東六郷であそぼう」では、田園地域に張り巡らされた水路での遊びを子どもとともに楽しんでいます。(写真下)



沿岸部にもまちにも

園内にとどまらない遊び環境づくりへ

集団移転跡地の利活用事業者決定や、深沼海水浴場再開に向けたイベントの実施など、沿岸部に賑わいを取り戻す動きが増えてきました。「農」と触れ合う機会・場を生み出したり、貞山堀や砂浜の魅力を発掘したり、自宅跡地を交流の場としたり…個人・グループの小さな営みも見られます。そんな人たちと、「ぼうひろ」に遊びに来た人たちがつながる機会をつくることで、多くの人が沿岸部の魅力に触れ、楽しむきっかけが生まれればと思います。

一方「ぼうひろ」は、まちの中での遊び場活動も続けていきます。「七郷中央公園冒険あそび場」は、その象徴。子どもが自分の足で遊びに行ける場所に「ぼうひろ」のような自由な遊び環境をつくっていくことを目指します。

下／2018年2月から仙台市若林区の七郷中央公園でスタートした「七郷中央公園冒険あそび場」。7月以降は毎週水曜日に開催していきます。右下／「七郷中央公園冒険あそび場」では七輪を使った火おこしにも挑戦できます。火があると子どもだけでなく、公園を訪れる様々な年代の地域の方々が足を止め、おしゃべりをしたりお茶を飲んだりしていきます。このような過程で地域の子どもの大人との交流の機会を創出して、子どもの遊びをおおらかに見守る大人の輪をつくっていききたいと考えています。



被災地域における生き物調査

「ぼうひろ」とその周辺的环境は2017年度も大きな変化が続き、「ぼうひろ」は再開に向けてデイキャンプ場・駐車場付近が全てかさ上げ道路と同じ高さに整備されています。周囲の海岸防災林の用地も、植樹されるのを待つのみになりました。このような変化の中、「ぼうひろ」の周囲を囲む樹林と藪は引き続き沿岸部の樹林性・林縁性の生き物の居場所として機能していました。「ぼうひろ」南側の湿地には仙台市によって池が整備され、水辺の生き物の居場所となることが期待できます。来年度は指定管理者としてこのような居場所を守ることを通し、来園者が生き物と触れ合える公園にもしていきます。



ふるさとの杜再生プロジェクト

仙台市が主催する「ふるさとの杜再生プロジェクト」連絡会議の一員として、今年度も様々な活動に取り組みました。

昨年度、七郷小学校4年生160名とともに「ぼうひろ」周辺の貞山堀で採取した実生苗は、同校敷地で順調に成長しています。2018年7月、採取地に植樹する予定です。

開始から5年目となる「仙台平野と居久根再生～大内さんのイグネ再生プロジェクト～」では、クロッカスやポピー、コスモスがそれぞれ花畑に咲いて六郷の二木地区を彩りました。昨年度移植した樹苗や実生の生育も順調です。



仙台市沿岸部の「遊び環境」としての魅力を発掘

「ぼうひろ」周辺地域の子どもの遊び環境としての魅力の発掘・創造にも取り組んでいます。2017年度は、せんだい3.11メモリアル交流館や20世紀アーカイブ仙台とも連携しながら、六郷東部地区の昔の子どもの遊びや、それを可能にした環境のありようを調査しました。地域のお年寄りを対象とした聞き取りを通して井土地区・藤塚地区の貞山堀や砂浜、二木の馬洗場、種次の名取川、三本塚の居久根、冬のたんぼなど、多様な遊び環境でのびのびと遊ぶ昔の子どもたちの姿を掘り起こすことができました。

「ぼうひろ」再開後は、このような豊かな遊び環境をもつ周辺地域の魅力を来園者に伝えるとともに、実際に園内や周辺地域で遊べる機会づくりに取り組んでいきます。



講座等の開催

開催地域	タイトル	日付
仙台市	「プレパ・クレストーク」(エル・ソーラ仙台) ※右下写真 【話題提供者】ふるじろプレーパークの会 森 あおい 氏・のりっば部会準備会 三原 さくら 氏	2月10日

他団体への協力

内容	団体名
遊び場活動・地域行事協力等	乳幼児室内あそび場「ちびひろ」、ふるじろプレーパークの会、にじいろクレヨン、いわぬまあそび場の会、にこにこキッズ、上荒井町内会、田子西中央町内会 ※左下写真、田子西こだま町内会、田子西三丁目町内会、七郷小おやつ会、若林小おやじっ子クラブ、わたしのふるさとプロジェクト、片平地区まちづくり会、花増大手町ランドデザイン作成委員会、上原市営住宅自治会、プレーワーカーズ、朝どり+楽農村、子どものまち・いしのみ実行委員会、泉中央駅前地区活性化協議会、七郷児童館、七郷地区子育て交流会、わくわくドキドキ5感で楽しむ若林実行委員会、七郷市民センター、若林区中央市民センター、仙台市農業園芸センター、FEELSendai、せんだい3.11メモリアル交流館、岩沼東児童館、柴田町太陽の村
講師等派遣	七郷小学校、山形大学、月寒公園パークライフセンター、日本冒険遊び場づくり協会、みやぎNPOプラザ
研修受入	仙台市協働人材育成事業
視察・見学受入	都市住宅学会、宮城県社会教育委

メディア等での紹介

媒体	タイトル	日付
新聞	「街で会いましょう(64)冒険あそび場～旧東六郷小学校～」/河北新報	6月5日
ラジオ	「ラヂオはいらいん若林」/ラジオ3 「デイリーニュース」/ジェイコム	8月19日 2月15日
その他	「自由な遊びが心を癒す 被災地回る『出張型遊び場』」/仙台市 東日本大震災 仙台復興のあゆみ 英訳版	10月1日

